

# くすやま美紀(樟山みき)活動報告



2018. 12. 13 NO. 238

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170

区議会控室 3312-2111(内)2319

## 阿佐谷北東地域のまちづくり方針 重大な問題点を徹底追及



- ◇杉一小 → 河北病院敷地に移転改築
- ◇杉一小跡地 → 民間参入による巨大高層ビル建設
- ◇河北病院 → けやき屋敷に移転改築

第1の問題は、杉一小跡地に高さ60m、13階建ての巨大高層ビルを建設するために、用地全体の容積率を500%に引き上げるなど、地権者への新たな優遇策がとられようとしていることです。

第2の問題は、杉一小移転予定地が、土壤汚染の可能性がありながら、移転を進めようとしていることです。移転予定地は、戦前から病院があり、医療廃棄物等が埋められた可能性があり、区も汚染の可能性を否定できませんでした。

第3の問題は、区有地の交換が地権者優遇で、区民の利益が損なわれかねないことです。

土地の換地(交換)は、公平、公正が原則です。しかし、日本共産党区議団の調査では、区が受け取る河北病院の土地価格は、杉一小の土地より2分の1も低く、容積率の引き上げで、さらに差が広がる可能性があることが判明。しかし、区は土地の評価額や根拠を示しませんでした。

さらに、党区議団の調査で、地権者や病院理事長から、田中区長が2014年の区長選挙時に献金を受けていることも明らかになりました。

様々な問題点の指摘に対し、区はまともに答弁しないという不誠実な態度に終始しました。この計画は、住民の声を無視して進められており、住民参加で計画を見直すよう求めました。

杉並区が進める阿佐谷北東地域のまちづくりが大問題となっています。区の計画は、杉一小を河北病院敷地に移転改築、杉一小跡地には巨大高層ビルを整備、さらに、河北病院は、けやき屋敷に移転改築するもので、貴重な屋敷林が削減されることは必至です。

第4回定例会の日本共産党区議団の追及で、計画の重大な問題点が浮き彫りになりました。

**問題点①巨大高層ビル建設のため容積率引き上げなど異常な優遇策が**

こんな計画が進められたら、阿佐谷駅北側の街並みが一変するだけでなく、周辺商店街との協調などお構いなしに、民間事業者の利益優先のビル事業になることが懸念されます。

**問題点②土壤汚染の可能性のある土地への小学校移転**

**問題点③土地の交換も地権者優遇か**

# 共産党区議団の条例提案 “多子世帯の国保料軽減を、自民、公明、立民などオール与党が否決

第4回区議会定例会は12月6日閉会しました。閉会日、本会議で、今定例会に提案された議案に対する採決が行われ、日本共産党杉並区議団が提出した「国保料の多子世帯に対する均等割を軽減する条例」は、残念ながら、賛成少数で否決されました。

前回のニュースでお知らせしたように、この条例提案は、6月議会に共産党区議団が提出したもので、収入のない子どもにまで1人5万1千円（23区）加算される国保料の「均等割」について、第3子以降の均等割を免除し、保険料負担を軽減するものです。

11月26日の保健福祉委員会の審議で、他党派の議員は、制度上の問題を認めつつも「軽減措置は区単独でなく、国の制度で行うべき」（自民）、「制度改革の制度内で検討すべき」（公明）、「国の23区富裕論に口実を与える」（いのち平和）、「所得制限が設けられていない。限られた財政の中で真に行政支援を必要とする方に支援すべき」（立憲民主）等々の理由で反対。少数会派の松尾議員は「自治体独自の支援を実施し、国や都の制度改正を促す意味もある」と賛成しましたが、委員会で議案は否決。

本会議の採決では、無所属の堀部議員が賛成しましたが、自民、公明、立民など、区議会のオール与党が反対し、可決されませんでした。

「均等割」軽減は、重要な課題です。引き続き、負担軽減に向けて力を尽くしていく決意です。

各会派の賛否

会派	自民	公明	平和	共産	自無	未来	立憲	杉わ	美杉	無	維新	す自
賛否	×	×	×	○	×	×	×	○	×	○	×	×



本会議場での採決の様子。壇上に向かって右（写真上）の後列2列が、賛成に起立する共産党区議団

## 杉並区議会議員の定数削減条例 自無が提案、反対多数で否決

定例会閉会日、自民無所属クラブから、杉並区議会議員の定数を48名から2名削減し、46名とする条例案が提出されました。

日本共産党区議団は、①行政では拾いきれない区民の要求や声を拾い、区政へ施策を提案していく議員の役割は強まっている。議員の数を減らせば、区民と区政をつなぐパイプが細くなり、区民の多様な意見を区政に反映していく役割が弱まる。

②議員には、自治体が住民福祉の向上という責務を果たしているのか、区長が暴走していないかなどをチェックする役割と責任がある。議員の数を減らせば行政へのチェック機能が弱まってしまふ。

③杉並区の人口は、定数52名の2002年当時50万8748人だったが、今年12月1日現在で56万9344人と6万人以上も増えている。人口が増えている現状で、議員を減らす道理は全くなくむしろ増やすべき。

と意見を述べ、反対しました。

採決では、自民、公明、立民なども反対し、賛成少数で、議員定数削減の条例提案は否決されました。



定数削減の反対討論